



真 栄



上のQRコードより本
校ホームページにアク

令和7年3月14日(金) 第9号

第35回 卒業証書授与式

本日、第35回卒業証書授与式を挙行了いたしました。143名の卒業生の皆さん、保護者の皆様、改めて御卒業おめでとうございます。また、小学校の先生方や地域の皆様など、たくさんの方々から御祝辞をいただきました。誠にありがとうございました。

本号では、式当日の校長式辞、在校生からのお祝いの言葉・卒業生からのお別れの言葉を紹介させていただきます。

校長式辞

今年の冬もまた、雪が少ない日が続いたかと思えば、突然、大雪になるなど、時には優しく時には厳しく、まるで皆さんの成長を見守るような冬でした。しかし、いつの間にか、木々の芽がほころび、命の息吹を感じる「春」、卒業を祝う季節になりました。

札幌市立真栄中学校を卒業する143名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

また、この佳き日に本校PTA会長様をはじめ、パートナー校である小学校の校長先生方、PTA役員の皆様、そして卒業生保護者の皆様の臨席を賜り、ここに第35回卒業証書授与式を挙行できますことが大きな喜びです。皆様には、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。

今、一人一人に卒業証書を手渡しました。これは中学校だけではなく、小学校と併せて9年間の義務教育を修了したこと、つまり社会人として自立するための「出発点」に立ったことを意味します。その卒業証書を手にすることができた喜びの陰に、今日までの15年間、我が子の健やかな成長を願い、慈しみ、育ててこられた保護者の皆様がいってくださったことを決して忘れてはいけません。今日の喜びは、皆さんの健やかな成長を心から願うすべての方々の喜びでもあるのです。

皆さんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染症対策による大きな制限を受けることがなく、アフターコロナ、ポストコロナと呼ばれる新しい時代の始まりとともにありました。この新しい時代は、「変化し、不確実で、複雑で、曖昧な」VUCAの時代、「予測困難な時代」でもあります。

この時代を生き抜くためには、この激しい変化を前向きに受け止め、人生をより豊かにしていくために、どうすべきかを主体的に考え出すことができる力が求められています。この力こそが、「生きる力」であり、まさに、真栄中学校で過ごした3年間で、皆さんが身に付けてきたものです。

ここで、皆さんにお願いが、二つあります。

一つ目は、今日、家に帰ったら、自分を育み慈しんでくれた方々に、卒業証書を見せながら、お礼の言葉を照れずに伝えてください。そして、「これからもよろしくお願いします」と必ずお願いをしてください。

二つ目は、校長先生が、何度も伝えてきたとおりに、これからも、かけがえのない「命」を大切にしてください。自分を傷つけることなく、他の人も傷つけることなく、いつまでも元気で健康に過ごし、「未来をきり拓く たくましく心やさしい」人として過ごしてください。

保護者の皆様そして本日会場にお越しの皆様。

私たち本校教職員一同、お子様の健全な心身の育成に資するよう、誠心誠意努めてまいりました。行き届かなかった点もあったかと存じますが、保護者並びに御家族の皆様、地域の皆様の本校教育に対する並々な御理解と御協力があったからこそ、この佳き日を迎えることができました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。これからも本校の教育活動に変わらぬ御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、卒業生の皆さん、どうか夢をもって、その実現に向かって歩んでください。

皆さんは、これから、どうすればよいのか迷う出来事や正解がない問題に直面し、そのたびごとに、落ち込んだり、苦しみやつらさを感じたりするかもしれません。そのような状況を乗り越える力、あるいは心の支えとなるのは、「大きな夢」や「強い夢」を実現しようとする気持ちです。

「夢」と言えば、故 John Lennon さんは、「IMAGINE」の中で、

You may say I'm a dreamer / But I'm not the only one

と歌っています。

『「君は、夢ばかり見ているね」って言うかもしれないけれど、夢を持っているのは自分だけじゃないんだ』というメッセージです。

生きる力を身に付けた皆さんが、他者からの批判等を気にせず、自分のペースで、自分が描いた夢に向かって歩み続けることを心から願い、私の式辞といたします。

令和7年3月14日

札幌市立真栄中学校長 三上 寛晃

在校生 お祝いの言葉

あたたかい日差しに、春の訪れを感じられる季節となりました。

この春に御卒業を迎える3年生の皆さんに、在校生一同を代表して、心からお祝いの言葉を申し上げます。先輩方と過ごした2年間は長いはずなのに、あっという間に過ぎ去りました。一つ学年が違うだけで、その背中ほど大きく見えたことでしょう。その背中からは、私たちを包みこんでくれるような温かさが感じられました。

そのような3年生は、様々な場面で頼りになる姿を見せていました。

行事に目を向けてみると、いつも先輩方が率先して盛り上げてくださいました。そのおかげでどの行事も楽しく参加することができました。特に印象に残っているのは、体育大会のリレーと文化祭の合唱です。

リレーでは、クラスで団結し、選手を応援する熱い声援がグラウンドに響き渡っていました。自分の学年だけではなく、他学年のことまで応援してくださって、走っている中で聞こえてくる声援は絶対に優勝するという気持ちをより確かなものにしてくれました。先輩方の応援は後輩である私達も心を動かされ、仲間の存在を改めて感じさせるものでした。リレー以外の競技でも、勝つために真剣に、けれど、楽しみながら取り組んでいました。その姿はまぶしく、私たちが作り上げていきたい行事の雰囲気そのものでした。

また、文化祭では3年生の迫力ある真っすぐな歌声が体育館中に響き、圧倒されました。合唱練習期間から、音楽室から3年生の歌声が私達の教室まで聞こえてくるほどの歌声で、一人一人が協力して盛り上

げていくことの大切さ、重要さを知ることができました。3年生の皆さんにとっては、1年生との合同練習が印象に残っているのではないのでしょうか。新しく中学校に入学した1年生の合唱を初めて聞いたのと同時に、3年生として後輩にお手本となるような合唱を響かせようと士気が高まったことと思います。

そして、委員会では私達にはない視野の広さで質問や提案をしてくださいました。私は、生徒会活動を通して先輩と関わる機会が多くありました。全校生徒みんなが楽しめるように考え、それを実現させるため行動に移す姿を通して、先輩としての威厳を感じました。それだけではなく、多くの先輩方が優しく話しかけてくださいました。どうしたらいいのか悩んでいるときにはアドバイスをしてくださったり、すれ違った際に「生徒会頑張ってるね!」と励みになるような声をかけてくださったり、学年の壁を感じずに交流できたのはそんな先輩方だったからです。互いに協力し合い、励まし合い、先輩方と築き上げてきた思い出はいつも笑顔に溢れていたことを忘れません。

真栄中学校の先頭に立ち、仲間との絆や、何事にも全力で取り組むことの大切さを私達に教えてくれたのは3年生の皆さんです。真栄中学校一の団結力をみせてくださった先輩方が今、それぞれの未来へ飛び立ちます。仲間との別れや新たな環境への不安は、もちろんあると思います。しかし、不安でたまらないときこそ真栄中学校で過ごした3年間を思い出してほしいのです。

いつだって私達のことを引っ張ってくれた先輩方なら、新たな場所でも輝き続けられるはずです。先輩方からたくさんのことを学んだように、私達在校生もこれからできる後輩たちに多くのことを教え、もっと真栄中学校をよい学校にしていきます。そのために、仲間を信頼し合い、誰にでも優しく接することのできる先輩を目指していきます。これからも、私たちの尊敬する素晴らしい先輩でい続けてください。先輩方のこれから歩む道が、輝かしいものであることを願っています。

令和7年3月14日

在校生代表

卒業生 お別れの言葉

寒さの中にも、ほんのりと春の気配を感じるころとなりました。新しい季節の到来を感じる今日、この日に、私達3年生は、真栄中学校を卒業します。

私達がこの真栄中学校に入学したときには、勉強についていけるか、友達と仲良くなれるかなど不安な気持ちがありました。しかし次第に中学校生活に慣れてくると友達も増えて、これからの行事など楽しい気持ちが大きくなってきたことが思い返されます。

1年生になって初めての行事には、校外学習がありました。この日は雨が強く、バスの中で昼食を食べたことが思い出に残っています。また、9月には文化祭がありました。コロナ禍ということもあり制限はあったものの、真栄中学校の伝統でもある合唱の楽しさを学ぶことができました。一方で、中学校から難しくなった勉強や、部活動、委員会などの新しいことが増え、慣れないことも沢山ありました。

この、中学校生活最初の1年間は、真栄中学校の伝統について学ぶことができ、これからの生活への期待がふくらんだ1年でした。

2年生に進級すると、先輩という立場になり、後輩の見本になるようにという思いで1年を過ごしたように思います。後輩の存在により責任感が高まり、委員会や部活動などに、これまで以上に熱中しました。また、コロナによる制限も軽くなり、できることもたくさん増えました。

そして、待ちに待った宿泊学習では、富良野演劇工房でコップを使った活動に取り組んだり、動物園で自分達が考えたルートを回ったりと、楽しい時間を過ごしたことを覚えています。この宿泊学習を通して学年全体の団結力も高まりました。

そして、中学校生活最後の1年に突入しました。最高学年になり、見学旅行、体育祭、文化祭などの行事に全力で楽しめました。見学旅行では、事前準備からこの行事を良いものにするため一人一人が責任感を持ち積極的に活動に参加することができました。

各クラスが円陣を組み、本気で勝ちに行くという気持ちがみなぎった体育祭、各クラスの個性ある歌を体育館に響かせた文化祭などを通して、何事も全力で楽しむことの大切さを改めて学ぶことができました。

私達の3年間は、受験勉強や部活動に委員会など大変なこともありました。しかし、行事はもちろん、仲間と過ごせた日常など楽しいことでいっぱいです。

今、このように言えるのは、優しく、時には厳しく指導してくれた先生方のおかげです。今までありがとうございました。また、家族には、食事の準備などの日常生活に必要なことをサポートしていただきました。それだけではなく、部活動や受験勉強の応援もしていただきました。これからは、自分のことはできるだけ自分でできるようにしますが、これからもよろしくお願いします。

そして在校生の皆さん、4月からは一学年上に進級しますね。後輩の見本になることも大事ですが、みなさんが卒業するとき、今まで楽しかったなと思えるように、残りの中学校生活を過ごしてください。私達も、4月から新たな生活が始まります。これから先、これまで以上に大変なことや楽しいことが待っていると思います。また、ここにいる卒業生一人一人は自分の思うゴールを持っていると思います。それぞれの困難なことを乗り越えて、一人一人のゴールに到達できるように頑張っていきます。

最後に、卒業生のみなさんへ。私は、ここにいる全員がいなければ、今、笑って卒業できなかったと思います。大変なときも楽しいときも、私達には仲間がいました。一緒に助け合い、楽しい思いを分かち合いました。この中学校生活を過ごせたのは、周りにいた仲間がいたからこそだと思います。本当にありがとうございました。さようなら！

令和7年3月14日

卒業生代表

